

---

# 30話 30枚目の銀貨

吉川明人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

30話 30枚目の銀貨

### 【Nコード】

N2822K

### 【作者名】

吉川明人

### 【あらすじ】

下男が長年奉公していた屋敷から暇をもらう際に銀貨を貰い受ける。

身分不相応は銀貨はやがて下男に不幸を呼び寄せる……。

「オラはこれからどれだけ働いたところで、これっぽっちの給金しかもらえねえ」

屋敷の下男は嘆いた。

小作人のその下の身分に生まれ、食いぶちを減らすため幼いころこの屋敷へ奉公に出されて以来、もう20年も働いているのにずっとわずかな駄賃でこき使われてきた。

旦那は悪い人間ではないが、いつも食わしてやっている恩を忘れるなと言う。

「食わしていただいたことはとても感謝しております。だども、オラに暇をいただきたいのです」

下男はこの日、決心して申し出た。

「辞めてどこへ行くつもりだ。お前などここを出て行けば、たちまち野垂れ死にするぞ」

「分かつておりますが、きっと何とかやっています。野垂れ死んだらそれまでです」

「だったらとつとと出て行けばいい。お前の代わりなどいくらでもいるぞ」

下男はその日のうちに屋敷を出ることにしたが、少しあわれに思ったのか、旦那は裏口から出て行く下男に長年奉公した駄賃だと銀貨を1枚くれた。

銀貨など見たこともなかった下男は、感謝して何度も頭を下げて旅立った。

「行くあてはねえが気楽なもんだ。いざとなったら銀貨もある。そうだ、無くさねえよう懐にしっかり隠しておこう」

下男は小さな布に包んで懐の奥にしまった。

いくつかの村を周ったが、屋敷の雑務しかしてこなかった下男にできる仕事は少なく、村人の手伝いをしながら屋敷の駄賃より少ない銭で細々と身をつないだ。

それでもあの銀貨を使うことは出来なかった。

親にさえ捨てられて誰にも認められなかった自分に、例えあわれみであろうと身を気づかった上でくれた銀貨は自分自身が認められた証だ。

しかし、下男の身分で銀貨を持つことなどあり得ないため、このことが誰にも話さなかった。

ある暑い夏の日。

汗にまみれたシャツを着替えている途中にすっかり落とした布がほだけ、こぼれ出た銀貨が派手な音をたてて床に転がった。

皆は下男が銀貨を盗んだのだと責め、役人に引つたてられてしまった。

下男がいくら無実を訴えても、疑わしい者から金を取り上げることが目的の役人は耳を貸そうとせず、神の名のもとに、泣き叫ぶ下男を処刑してしまった。

取り上げられた銀貨は、同じような罪人たちから集められた袋に

保管され、上の役人へのワイロに使われている。

だが、今回の下男から取り上げられた銀貨は、最近になってあやしげな説法を広め、民衆を煽動して教会の地位を危ぶませようと企む“ヨシユア”と名のる大工の息子の弟子の1人を裏切らせるために使われた。

(後書き)

セム民族系のヘブライ人“ヨシユア ベン ヨセフ”はイエスキリストと呼ばれ、その弟子ユダは30枚の銀貨で裏切ったとされている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2822k/>

---

30話 30枚目の銀貨

2011年1月19日01時22分発行